

なぎさ小学校 五年一組 北原 楓

私は、阪神淡路大震災の時、お腹の中にいました。でも、地震は、そんなことはおかま
いなしに、私達におそいかかっ てきました。
私は、その時のようすは知らないけれど、他の
人に聞いて、知りました。その話の中で、一
番大切だと思っ たことは、思いやり、助け合
い、です。ふだんは、ただ、あいさつをする
だけの人も、災害の時には、とても大切にな
ります。例えば、近所の人達で協力して、か
れきの下いきになっ ている人を助けたり、バ
ケツリレーをして、消火活動をしたりして、
一人の、小さな力でも、たくさん集まれば、
とても大きな力になります。近所だけじゃな
くて、日本中、世界中から、救援物資などが
送られてきて、その時一緒に、思いやりの気
持ちも、送られてきたと思います。

私達の周りには、いろいろな人がいます。
中心には自分かいて、その周りには家や家族

そのまた周りには、友達や地域の人達、そしてその周りには、学校や町があって、私達一人が生きていくのに、周りのたくさんの人が助けてくれた。阪神淡路大震災では、失なったものも多けれど、そのかわり、相手のことを思いやる心や、助け合いの大切さを教えてくれた人だと思えます。

これからも、決して忘れることは無いだろうけれど、悲しみをあつともっていたら、前に進めないから、その悲しみをのりこえて、さらにたくさんの人にも、阪神淡路大震災での経験や、防災のことを伝えていかなければいけないと思う。

私はこれから、自分より若い世代の子達に、自分のお母さんや、他の人の苦勞など、阪神淡路大震災のことを伝えていきたり、